

# 防衛医科大学校の4年間を振り返って 執行 優利花

(鳥栖高校26年3月卒業)

私は防衛医科大学校自衛官コースを卒業して、良かったと思うことが二点あります。

一点目は、一般大学では、できないような経験ができたことです。

防衛医科大学校自衛官コースは、看護師、保健師である幹部自衛官を養成するコースであり、そのための授業や訓練が一般大学と同じ授業に加えて組まれています。

授業例としては、災害や有事の看護を学ぶ防衛看護学、夏には銃の操作方法や射撃訓練、冬にはスキー訓練、3年次には硫黄島訓練等、ここには書ききれない程のことを経験することができます。

これらの経験は、将来看護師、保健師である幹部自衛官として自衛隊病院や災害現場等で働くために必要なものであり、大学卒業後に入校する幹部候補生学校においても学生時代の経験が役立ちました。

もちろん、様々な経験を積める分、大学生活は充実しており、勉強することも多く、時には体力も必要になります。

しかし、勉強面、体力面共に、教官が支えて下さり、体力も少しずつ向上していけば問題ないため不安に思う必要はなく、忙しい中でも自分の向上心や興味によって、大学生活はより楽しく、豊かにできると思いました。

二点目は、人との仲が深まったことです。

自衛官コースの学生は先輩、後輩、同期と4年間寮で生活します。そして、切磋琢磨し、互いに助け合いながら過ごすことで、寮生特に同期生との仲が深まります。

私自身、今まで本音で話せる人は、そう多くはなかったのですが、大学に入り、楽しい話や真剣な話ができる友人が増え、卒業後の配属病院が別でも友人でいたいと思える人に出会えました。



実習中の筆者



また、先輩と後輩が交流する場も設けられるため、勉強等に関する相談も気軽にできます。

このように人との交流を密に行うことができるのは、寮生活であるからこそだと思います。

私はこれから大学を卒業して看護師、保健師である幹部自衛官として働く中で、学生時代の経験を活かし、築いた人との仲を大切にしていきたいと思えます。



人との絆を大切に